

# 令和7年度 横浜市予算に対する要望書

一般社団法人 横浜建設業協会

コロナ禍の影響が残る中で、ウクライナ情勢による燃料価格の上昇や円安の影響により資材価格は高止まりの状況が続いております。

また、人口減少と高齢化の進行に伴う担い手不足は全産業に共通する課題ですが、とりわけ長時間労働や休日等の問題を抱えてきた地域建設業にとっては一層深刻であり、特に「若年層の就業者確保」のための環境整備を強力に推進していく必要があります。さらに、働き方改革の一環として、時間外労働の上限規制が始まり、対応が急務となっています。

当協会も、これまで週休2日制実現などの改善を目標に掲げて、横浜市予算要望、各局対話会の機会などを通じて、発注者・受注者が共通の認識のもとで、発注・施工時期の平準化、適正な工事価格、適正な工期の設定、書類の簡素化などに総合的に取組んで頂くことを要望してきました。

以上のように、今後の建設産業の様々な課題に立ち向かっていくためにも、令和7年度の予算編成にあたっては、以下の事項に関して特段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

## 1. 市内企業の受注機会の確保・拡大について

### (1) 公共工事の予算確保について

燃料価格の上昇や円安の影響により建設資材価格が高止まりしています。さらに、働き方改革、週休2日制、残業規制に伴い、労務単価、現場管理費、一般管理費の引上げが必要です。そのため工事費がアップし、前年並予算では発注件数の減少につながりますので、前年度予算に工事費アップ分を見込んだ予算確保をお願いします。

### (2) 花博関連工事について

2027年国際園芸博覧会（上瀬谷開発）の予算付けに批判する声も多い中、予算を削減するような事が無いように、適正な価格で工事を終われるように、予算を確保して頂くよう要望します。

また、花博関連工事の市内業者向け発注を増やして頂くようお願いいたします。

### (3) インフラ整備の予算について

横浜市主要局の令和6年度予算（一般会計）で、環境創造局は前年度4.5%減、道路局は0.4%減、都市整備局は1.8%増、建築局は4.9%増となっています。特に、環境創造局の4.5%減と道路局の0.4%減は我々建設業界にとってはショッキングな数字です。

今年1月の令和6年能登半島地震やこのところの千葉県の地震など、自然災害に備える為の国土強靱化が急務とされております。特に令和6年能登半島地震では、道路、下水道、水道施設が大きな被害を受け、長期に渡り住民生活が元に戻っておりません。そのような事例からも、災害を見据えたインフラ整備への一層の予算配分を要望します。

### (4) 道路網の整備について

道路網の整備は人々や物資の流通がスムーズとなり、住民の生活の向上と災害時のリスク軽減など重要な役割があります。そのため、道路整備事業の予算増を要望します。特に横浜環状北線、北西線、南線の整備が進んできています。横浜環状西エリアの事業を早期に実施し環状線の完成を実現して頂くようお願いします。

## 2. 適正価格での受注について

### (1) 小規模な建築工事の設計単価について

建築Bランク以下のいわゆるボリュームの小さい工事の直接工事のほぼ全ての単価が市場単価に追いついておりません。施工数量の少ない工事、施工しにくい場所での工事、材料の小運搬が必要な工事等については、割増し又は一人工分の単価で計上して頂くよう要望します。

例としては、鉄筋の加工組立では設計単価の倍、型枠では設計単価の1.5倍かかり、生コン打設の材工単価では打設手間が確保できませんでした。

### (2) 労務単価について

労務費が人手不足で高騰しているため、労務単価が実勢価格と乖離しているものが見受けられます。特に交通誘導員の単価を実態に合わせて頂くよう要望します。

### **(3) 維持補修の工事単価について**

一円工事などの維持補修に関する工事単価については、見積採用を増やして頂くよう要望します。修繕工事の場合、契約後に施工内容が決まるため事前に予算検討ができず、結果として青本（設計業務等標準積算基準書）など歩掛りがあるものはその単価が採用されることによって、実施工費と工事設計金額との差異が生じてしまいます。

### **(4) 切削オーバーレイ工の単価について**

昨今、路面切削機と路面清掃車の価格が急騰しています。単価を上げて頂くよう要望します。

## **3. 設計変更について**

依然として、設計変更の上限額 30%に達したことにより、工事を打ち切るケースが発生しています。設計変更の上限額 30%を撤廃して頂くよう要望します。

また、設計変更で上限額を超えることで随意契約にする場合、当初の落札率を掛けて積算するのは改善して頂くようお願いいたします。

## **4. 工事中用仮置場について**

市内で工事中用仮置場を見つけることが困難な現状を踏まえ、各局工事に使用できる横浜市の置場を増やし、支給頂けるよう要望します。また、そのための予算確保をお願いいたします。

## **5. 省エネ補助金の拡充について**

作り出したエネルギーの無駄が無いよう、作り出すエネルギーが少量で済むよう、老人、子供、障がい者などの各施設、公共施設、学校等また民間企業のオフィス等の省エネ化を目的とした2重ガラスの設置、2重サッシや樹脂製サッシの導入また外断熱化、屋上緑化のための改修や新築時の環境改善を目的とした補助金の拡充を要望します。

以上